令和６年４月

令和５年度私立幼稚園教育水準向上支援事業　実施報告書

東京いずみ幼稚園

◆事業概要

当該事業は、東京都の「令和５年度私立幼稚園教育水準向上支援事業補助」を活用し、本園が取り組む音楽教育の向上を図るものである。事業の概要は次のとおりである。

（１）音楽家による指導方法の改善及び直接指導機会の確保

・年間を通して音楽家から助言を得ながら指導方法の改善を行う。秋から冬にかけては、園児が音楽家から歌唱法や楽器の演奏法に関して直接指導を受ける機会を設け、表現力の向上を図る。

・成果発表の場として、外部のホールを借りての演奏会を２回実施する。１回目は歌曲、２回目は器楽を中心とした会とし、豊かな感性や表現する力を養う機会とする。

（２）研修体制の充実

・園で実施する音楽教育のカリキュラムを十分に実践できるように、教職員に対して春・夏に外部研修に参加する。

・日常的にも園内でも研修を実施し、フォローアップを行う。

◆実施報告

当該事業の実施状況および得られた成果は次のとおりである。

（１）について

◆年間を通しての活動

・園で扱う歌曲（全体の歌・学年の歌）について音楽家からの助言をもとに月１回歌唱勉強会を企画した。今年度については、園職員と音楽家が選曲の段階から意見交換を行い、歌う上での留意点を全体で確認し、実際に歌うことでフレーズ感や歌詞で気を付けるべき点、歌のマインドなどの理解を深めた。また、指揮やピアノ伴奏などの実技指導も行い、園全体の指導力向上に寄与した。

・ピアニストから直接指導を受ける機会では、通常の園職員による指導とは異なる手法で音楽性の向上が図られた。鍵盤ハーモニカの導入時には、今までは低い方から白鍵の数を数えて基準となる「ド」の音を探していたが、「ピースをして２つの黒鍵を押さえる → 親指の右の位置が『ド』です」という方法を試してみた。子供によっては、以前の方法よりも正しくドの位置が置ける子もいて、園職員には教える手段を増やすことで指導が上手くいく場合があることを学んだ。

◆演奏会に向けて

・器楽演奏においては鍵盤ハーモニカに触れる前にまずはソルフェージュで歌うことで曲の理解が深まり、結果として弾けるのが早くなることが今年度も認められた。また、運指定着や息継ぎのタイミングを合わせること、フレーズ感を意識してスタッカートやレガートの使い分けなど音楽性の向上が見られた。

・打楽器の奏法については、音楽家が園職員にも指導技術を伝授すること、また演奏会が近づいた頃からは直接園児を指導した。バチの持ち方や手首のスナップ、強弱の付け方、タンバリンやシンバ

ルの持ち方や叩く角度など細かい点も伝えた。その結果、リズムが崩れやすいフレーズでの演奏力が向上し、楽曲全体が安定しやすくなった。

・歌唱の指導では、指導への助言に加えてドラムやキーボードを用いて通常よりも華やかな演奏を提案した。また、園児が作曲した創作曲には、振付やアナウンスも追加し、子供自身がより楽しめる内容になった。

◆演奏会用の楽曲について

・１２月と２月の園外でのコンサートに向けて、音楽家に園での指導状況を見て頂いた上で、次の楽曲を演奏曲として編曲を依頼した。

①年少合奏　　『踊るポンポコリン』
②年中合奏　　『森の鍛冶屋』（ミヒャエリス）
③年中鍵盤奏　『ジャンボリミッキー』、『茶色の小瓶』（エストバーン）
④年長合奏　　『ペルシャの市場にて』（ケテルビー）
⑤年長鍵盤奏　『エル・クンバンチェロ』（エルナンデス）
⑥年長歌唱　　創作曲６曲の伴奏

・①については、ドレミファソの音階だけで演奏でき、コーデル（和音笛）を駆使することで合奏の楽しみを味わえる編曲となった。有名アニメの主題歌でもあり、子供達にも耳馴染みがあるので、完成度の高い演奏となった。

・②～⑤については、園児が演奏する性質上、キーボードや打楽器を主体とした演奏であるが、原曲のシンフォニックな響きをできるだけ再現でき、かつ園児の演奏能力に適した譜面を目指した。結果としては、十分にその両立の図れる楽曲となった。

・⑥は園児が作詞作曲したものを、子どもが持つ自由な作風を生かす形で伴奏をつけて頂き、子供達も楽しく歌うことができた。

（２）について

・７月と３月の MS 研修に参加し、園が実践する音楽カリキュラムの実践力を高めた。

・普段から実践している音楽カリキュラムであるが、他園からの参加者と切磋琢磨し、自身のやり方を再度振り返る機会にもなった。

・指導技術の面では、楽曲の伴奏のアレンジ方法、頭声発声のフレーズ集を利用した歌唱指導法を学んだ。

・また、カリキュラムを実践する中で育てる子供の資質については、脳科学や教育経済学が明らかにした非認知能力の育成の観点から適切な言葉かけをするなどの意見が出た。

※内容については「MS 夏季研修」および「MS 春季研修」資料参照のこと

以上